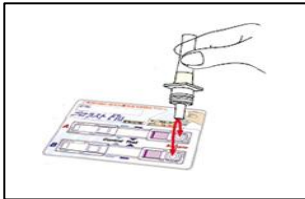


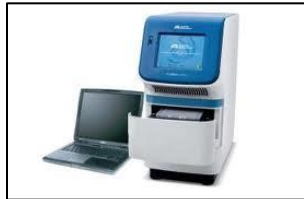
日本ケミコン(株)、千葉大学附属病院、宮崎大学附属病院、国立国際医療研究センター、千葉大学大学院医学研究所、豊橋技術科学大学、(株)ユニテック、G&Gサイエンス(株)

◆ インフルエンザ診断の現状と新技術の比較

● 現状： 実用的な型別確定診断がない



①簡易検査キット



②リアルタイムPCR

①簡易検査キット(クロマト式)

手早く診断できる反面、精度が低く1種類しか対応出来ない
薬剤耐性の判別が不可能、類似疾患との判別が困難

②リアルタイムPCR

一つのウイルス遺伝子を確定するだけで数時間かかり高コスト
使用施設が限定される

● 新技術： 迅速に型別確定診断が可能な世界初の技術



ディスプレイ機能付パッケージ



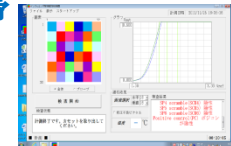
■ 優位性

- ・100コピーで判定可能(感度が高い)
- ・前処理での増幅を行う必要が無い
- ・複数のインフルエンザウイルスを同時に一括検査が可能：20min
(薬剤耐性の判別、類似疾患との判別)
- ・廃液溜め内蔵によるコンタミネーション防止とディスプレイ化
- ・小規模な医療機関でも設置可能な価格帯



・ベッドサイド、外来での即時診断可能

(患者検体を即時に分析、高精度に迅速型別確定診断が可能)



一目で直感的な診断が可能！